

目 次

はしがき
凡 例
執筆者紹介

序 刑法各論の意義と体系	1
1 刑法各論の意義と課題	1
1 泥棒に殺人罪を適用しないために (1) 2 「各論」学習の方法 (2)	
2 刑法各論の「体系」	3
1 「法益」による分類 (3) 2 法益論の限界 (4) 3 検討の 順序 (5)	

第 I 部 個人的法益に対する罪

第 1 章 総 説	9
第 2 章 生命・身体に対する罪	10
1 総 説	10
1 生命の形成プロセスと刑法的保護 (10) 2 人の始期 (11)	
3 人の終期 (13)	
2 殺人の罪	16
1 殺人罪 (16) 2 尊属殺人罪 (16) 3 殺人予備罪 (17)	
4 自殺関与・同意殺人罪 (17) 5 殺人罪と自殺関与・同意殺人 罪の区別 (21) 6 安楽死と尊厳死 (23)	
3 傷害の罪	26
1 総 説 (26) 2 傷害罪 (26) 3 傷害致死罪 (28)	
4 現場助勢罪 (28) 5 同時傷害の特例 (29) 6 暴行罪 (31) 7 凶器準備集合罪・同結集罪 (33)	

4	過失傷害の罪	35
1	過失傷害罪, 過失致死罪 (35)	
2	業務上過失致死傷罪 (36)	
3	重過失致死傷罪 (37)	
4	危険運転致死傷罪 (38)	
5	過失運転致死傷罪 (41)	
5	堕胎の罪	42
1	総 説 (42)	
2	各犯罪類型 (44)	
6	遺棄の罪	45
1	総 説 (45)	
2	各犯罪類型 (49)	

第3章 自由に対する罪 52

1	総 説	52
2	逮捕・監禁の罪	53
1	逮捕・監禁の罪の類型 (53)	
2	逮捕・監禁罪 (54)	
3	逮捕・監禁致死傷罪 (57)	
3	脅迫の罪	58
1	脅迫の罪の類型 (58)	
2	脅迫の罪の保護法益とその意味 (58)	
3	脅迫罪 (60)	
4	強要罪 (62)	
4	略取・誘拐・人身売買の罪	63
1	略取・誘拐・人身売買の罪の意義と犯罪類型の整理 (63)	
2	2005年の刑法改正 (63)	
3	略取・誘拐・人身売買の罪の性格と保護法益 (66)	
4	未成年者拐取罪 (67)	
5	営利目的等拐取罪 (67)	
6	身代金目的拐取罪・要求罪 (69)	
7	所在国外移送目的拐取罪・人身売買罪・被拐取者等所在国外移送罪 (70)	
8	被拐取者等引渡し等の罪 (70)	
9	未遂処罰および特別規定 (71)	
5	強制わいせつおよび強制性交等の罪	72
1	犯罪類型の整理と位置づけ (72)	
2	強制わいせつ罪 (74)	
3	強制性交等罪 (78)	
4	準強制わいせつ・準強制性交等罪 (80)	
5	監護者わいせつ・監護者性交等罪 (82)	
6	強制わいせつ・強制性交等致死傷罪 (84)	
7	淫行勧誘罪 (85)	
6	住居を侵す罪	86
1	本罪の性格 (86)	
2	保護法益 (87)	
3	住居侵入罪 (89)	
4	不退去罪 (94)	

第4章 人格的法益に対する罪 95**1 秘密に対する罪** 95

1 信書開封罪 (95) 2 秘密漏示罪 (96)

2 名誉に対する罪 98

1 総説 (98) 2 名誉毀損罪 (101) 3 公共の利害に関する場合の特例 (103) 4 侮辱罪 (109)

第5章 信用および業務に対する罪 111**1 信用毀損罪** 111**2 業務妨害罪** 113**3 電子計算機損壊等業務妨害罪** 119**第6章 財産に対する罪** 120**1 総説** 120

1 刑法による財産権保護 (120) 2 財産罪の分類と体系 (121)

3 財産罪の客体 (123) 4 財産罪の保護法益 (126)

2 窃盗の罪 131

1 総説 (131) 2 客体 (133) 3 占有 (133)

4 窃取 (140) 5 不法領得の意思 (142) 6 不動産侵奪罪 (150) 7 親族相盗例 (151)

3 強盗の罪 154

1 総説 (154) 2 財物強盗罪 (1項強盗) (155) 3 利益強盗罪 (2項強盗) (163) 4 強盗予備罪 (167) 5 事後強盗罪 (168) 6 昏酔強盗罪 (173) 7 強盗致死傷罪 (174)

8 強盗強制性交等罪・強制性交等強盗罪, 同致死罪 (178)

4 詐欺・恐喝の罪 179

1 総説 (179) 2 詐欺の罪 (180) 3 電子計算機使用詐欺罪 (199) 4 準詐欺罪 (203) 5 恐喝の罪 (203)

5 横領の罪 208

1 基本的性格 (208) 2 横領の罪の種類 (208) 3 保護法益 (209) 4 (委託物)横領罪 (210) 5 業務上横領罪 (219)

6 遺失物等横領罪 (219) 7 共犯と罪数 (221) 8 親族間の犯罪に関する特例 (223)

6	背任の罪	224
1	背任罪の性格 (224)	
2	背任罪の本質 (225)	
3	背任罪の成立要件 (226)	
4	背任と委託物横領の関係 (231)	
7	盗品等に関する罪・毀棄および隠匿の罪	233
1	盗品罪の種類と性格 (233)	
2	盗品罪の本質 (235)	
3	盗品罪の主観的要件 (239)	
4	共犯と罪数 (240)	
5	親族等の間の犯罪に関する特例 (241)	
6	毀棄および隠匿の罪の構成 (242)	
7	各犯罪類型 (242)	

第Ⅱ部 社会的法益に対する罪

第7章 総 説	255
----------------	-----

1	社会的法益に対する罪の種類	255
2	社会的法益と個人的法益の関係	255
3	抽象的危険犯と具体的危険犯	256

第8章 公共の安全に対する罪	257
-----------------------	-----

1	騒乱の罪	257
1	総説・概要 (257)	
2	騒乱罪 (258)	
3	多衆不解散罪 (260)	
2	放火および失火の罪	261
1	総 説 (261)	
2	現住建造物等放火罪 (264)	
3	非現住建造物等放火罪 (266)	
4	建造物等以外放火罪 (268)	
5	延焼罪 (268)	
6	消火妨害罪 (269)	
7	失火罪・業務上失火罪・重過失失火罪 (269)	
3	出水および水利に関する罪	270
4	往来を妨害する罪	270
1	総 説 (270)	
2	往来妨害罪・同致死傷罪 (271)	
3	往来危険罪 (272)	
4	汽車転覆等・破壊罪, 同致死罪 (273)	
5	往来危険による汽車転覆等・破壊罪 (275)	
6	過失往来危険罪, 業務上過失往来危険罪 (276)	

第9章 公衆の健康に対する罪……………277

- 1 あへん煙に関する罪……………277
- 2 飲料水に関する罪……………278

第10章 公共の信用に対する罪……………279

- 1 偽造の罪の共通問題……………279
 - 1 「偽造の罪」の種類 (279) 2 「偽造」の種類 (279)
 - 3 「偽造」の定義 (282) 4 「文書」の意味 (286) 5 「行使」および「行使の目的」 (288)
- 2 通貨偽造の罪……………289
 - 1 通貨偽造の罪の保護法益 (289) 2 通貨偽造・行使 (289)
 - 3 偽造通貨取得・取得後知情行使 (292) 4 通貨偽造準備 (292)
- 3 文書偽造の罪……………293
 - 1 詔書・公文書の偽造 (293) 2 私文書の偽造 (296)
 - 3 虚偽診断書等作成 (297) 4 電磁的記録不正作出 (297)
- 4 有価証券偽造の罪……………299
 - 1 概 観 (299) 2 有価証券の意味 (299) 3 有価証券偽造罪 (300) 4 偽造有価証券行使罪 (301)
- 5 支払用カード電磁的記録に関する罪……………301
 - 1 カード「偽造」の罪概観 (301) 2 本罪の諸類型 (302)
- 6 印章偽造の罪……………304
 - 1 印章・署名・記号 (304) 2 各犯罪類型 (307)

第11章 風俗に対する罪……………308

- 1 総 説……………308
- 2 わいせつおよび重婚の罪……………308
 - 1 わいせつの罪 (308) 2 公然わいせつ罪 (312) 3 わいせつ物頒布等罪 (314) 4 重 婚 罪 (317)
- 3 賭博および富くじに関する罪……………317
- 4 礼拝所および墳墓に関する罪……………320

第Ⅲ部 国家的法益に対する罪

第12章 総 説	325
1 国家的法益の意義	325
2 国家的法益に対する罪の分類	325
第13章 国家の存立に対する罪	326
1 総 説	326
2 内乱に関する罪	326
1 内 乱 罪 (326) 2 内乱予備・陰謀・幫助罪 (328)	
3 外患に関する罪	328
第14章 国交に関する罪	330
1 総 説	330
2 国交に関する罪	330
第15章 国家の作用に対する罪	332
1 総 説	332
2 公務の執行を妨害する罪	332
1 公務執行妨害・職務強要 (332) 2 封印等破棄・強制執行妨害目的財産損壊等 (336) 3 公契約関係競売等妨害・談合 (338)	
3 司法作用に対する罪	340
1 逃走の罪 (340) 2 犯人蔵匿および証拠隠滅の罪 (343)	
3 偽証の罪 (347) 4 虚偽告訴の罪 (350)	
4 汚職の罪	351
1 職権濫用の罪 (351) 2 賄賂の罪 (353)	
参考文献案内	361
判例索引	364
事項索引	377

📖 Topic 目次

- 2-1** 臓器移植法（1997年法104号）（15） **2-2** 母体保護法と人工妊娠中絶の現状（43） **3-1** 人身取引議定書（65） **3-2** 住居を侵す罪の沿革（87）
3-3 客体ごとに保護法益が違う!?—多元的法益論—（91） **3-4** ポスティングと住居侵入罪（92） **6-1** 他人名義のカードの使用（192） **6-2** 親族相盗例の準用（205） **6-3** 領得行為説と越権行為説（210） **6-4** 3つの横領罪の相互関係（211） **6-5** 「自己の物の特例」と「領得」（218）
6-6 違法な事務の委託の場合（229） **6-7** 公用文書毀棄罪の公務妨害罪的性格（243） **6-8** ピラ張りと建造物損壊（247） **10-1** 「形式主義」と「実質主義」（281） **10-2** 「文書の性質」論（287） **10-3** 「通貨高権」（289） **10-4** 「補助公務員」問題（293） **10-5** スキミングの未遂（303）
10-6 不正指令電磁的記録に関する罪の新設（305）

▶▶▶ Further Lesson 目次

- 2-1** 自殺関与と同意殺人の区別（20） **2-2** 生命保続可能性（墮胎罪と殺人罪・遺棄罪との関係）（44） **5-1** 業務妨害罪の限界線の設定と新たな刑事立法の可能性（117） **6-1** 判例は占有説を採用したのか？（131）
6-2 不法領得の意思と財産罪の保護法益との関係（143） **6-3** ひったくり（158） **6-4** 誤振込みの場合（212） **6-5** 横領後の横領（222）
6-6 建造物の他人性と民法（246） **6-7** 「毀棄」ないし「損壊」の意味（248） **6-8** 「損壊」・「毀棄」と「隠匿」の関係（250） **8-1** 不燃性建造物の問題（263） **10-1** 「人格の同一性」（284） **10-2** 「間接無形偽造」（294） **10-3** カードを作出しないスキミング（302） **10-4** 印章偽造と文書偽造との区別：「省略文書」問題（306） **15-1** 犯人による蔵匿・証拠隠滅の教唆（345） **15-2** 被告人による偽証の教唆（348）
15-3 準起訴手続（付審判請求手続）（353）